



発行所 財団法人兵庫県消防協会  
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号  
編集発行人 関山 巧  
定価 1部44円  
題字 井戸 知事

火のしまつ  
君がしなくて  
誰がする

# 平成二〇年度 消防団長名簿

## 各地区の団長を御紹介します。

(平成二〇年度七月一日現在、敬称略)

### 神戸地区

東灘	伊藤 繁彦
灘	伊藤 真彦
中央	深井 勲
兵庫	伊庭 勝一
北	祢木 和明
長田	濱崎 爲司
須磨	高木 優和
垂水	佐藤 博司
西	北井 道男
水	渡邊 真二

### 中播磨地区

姫路市	姫路東 坪田 裕
	姫路西 梅元 義昭
飾磨	梶原 哲
網干	中田 正成
家島町	上田 一夫
夢前町	栗林 忠道
香寺町	白石 光廣
安富町	梅田 善幸
市川町	山下 善弘
福崎町	城谷 英之
神河町	松本 日出一

### 北播磨地区

西脇市	遠藤 明
三木市	中西 君一
小野市	小林 正幸
加西市	吉田 秀貴
加東市	柴崎 彰孝
多可町	梶間 信明

### 西播磨地区

相生市	河合 勝
たつの市	田中 旭
赤穂市	望月 昌次
宍粟市	横野 正浩
山崎	長野 隆一
播磨町	田中 廣治

### 淡路地区

波賀	田中 敏廣
千種	春名 玄貴
佐用町	松田 芳夫
太子町	嶋澤 清美
上郡町	松本 隆雄

### 但馬地区

豊岡市	西垣 豪太郎
城崎	日生下 慎一
竹野	山根 昌勝
日高	長岡 健美
石高	藤岡 正昭
出石	坂岡 政昭
但東	坂岡 政昭
養父市	浄慶 康治
朝来市	金城 正夫
香美町	本城 繁信
新温泉町	平澤 輝實

### 丹波地区

篠山市	坂下 邦男
丹波市	藤本 修作

### 淡路地区

洲本市	竹口 弘之
南あわじ市	川本 啓二
淡路市	井筒 良夫

## 第十四回 全国女性消防団員活性化北海道大会

### 兵庫県消防協会

第十四回全国女性消防団員活性化北海道大会が平成二〇年六月八日(日)に札幌市の札幌コンベンションセンターで開催されました。

式典は全国から女性消防団員を始めて、消防職団員二、〇〇〇人以上が参加する盛大なものとなり、兵庫県からも関山会長以下三四名が参加しました。

札幌市消防音楽隊・カラーガード隊によるオープニングセレモニーの後、開会宣言、主催者あいさつ、開催地市長あいさつ、来賓祝辞、来賓紹介と進行し、活動事例発表に移りました。

活動事例発表には、兵庫県から神戸市東灘消防団の高橋実芳子団員が選出され、「災害に強い街づくり」のテーマで、地域

と消防団の絆と阪神・淡路大震災の経緯を継承することの大切さを活動事例と併せて発表されました。会場に集まった全国の消防団関係者にひょうごの消防団の取り組みを十分に伝えることができました。また、会場に設けられた消防団員活動PR展示コーナーでは尼崎市消防団の活動が紹介され、全国の女性消防団の活動を知ること今後の活動について考える良い機会となりました。

午前の部の最後には、札幌市無形文化財である丘珠(おかだま)獅子舞が披露され会場からは大きな拍手が巻き起こっていました。

休憩をはさんで、火災予防啓発劇、参加者による意見交換が行われ、本式典のトリを飾る元日本ハム監督大沢啓二氏の記念講演に移りました。「親分」の愛称で親しまれる大沢氏の講演は「人生苦あれば楽あり」の演題で行われ、豪快ながらも一人ひとりに語りかけるような口調で、唄もまじえた講演は参加者の気持ちをガッチリつかむすばらしい講演でした。

最後にお礼のことばと、次回開催地の岡山県への大会旗引継ぎが行われ式典は盛会のうちに幕を閉じました。



全国女性消防団員活性化北海道大会

兵庫県からの参加団体は次のとおりです。  
神戸市東灘消防団  
神戸市北消防団(有馬支団)  
尼崎市消防団  
丹波市消防団  
豊岡市出石消防団



活動事例発表

### 西宮市消防団 機能別消防団員制度導入

西宮市消防団において、県下初となる機能別消防団員制度が導入されました。  
消防職・団員OBを機能別団員として採用するもので、大規模災害時における避難誘導等限定した活動に従事することになります。  
団員確保については、あくまで全ての活動に従事する「基本団員」の確保が前提となりますが、定員割れが常態化しているような場合は地域防災力確保の面からも有用な手段となるのではないのでしょうか。  
多様な活動が期待されている消防団ですが、こういった取り組みが「ひょうごの消防団」の一層の活性化につながればと思います。

## 第二回

### 兵庫県消防操法大会開催迫る!

第二回兵庫県消防操法大会が来たる八月三日(日)に兵庫県広域防災センターで開催されます。

操法大会の開催まであと二週間ほどとなり、県内各地区からの出場隊もほぼ出そろってきましました。また、ポンプ車の部で優勝した隊は一〇月に東京ビッグサイトで行われる第二回全国消防操法大会に兵庫県代表として出場することとなっています。

前回の県大会では、各地から一、〇〇〇人以上の応援団や見学者が来場され、激戦の結果、小型ポンプの部で神河町消防団が、ポンプ車の部では多可町消防団が、それぞれ優勝しました。今年はそのような熱戦が繰り広げられるのでしょうか、楽しみ

です。  
消火活動の基礎となる消防操法は、消防人の自覚と連帯意識を高め、技術の向上と士気の高揚を図り、消防活動の進歩充実に寄与するものであります。日々の訓練の成果を十二分に発揮され、全国大会への切符を勝ち取っていただきたいと思っております。  
皆様のご健闘をお祈りいたします。



「団員の心意気」

西脇市消防団長

遠藤

明



我が西脇市消防団の歴史は古く、明治二八年に多可郡消防組(多可郡西脇町・同重春村・同日野村・同比延庄村)が発足、昭和二七年に一町三村が合併し西脇市成立に伴い、西脇市連合消防団(四地区消防団)として改編、昭和二九年に加西郡芳田村が西脇市に編入し、五地区消防団となり、昭和四一年に機構改革により六分団四三部となりました。

更に、平成の大合併により、平成十七年西脇市と黒田庄町が合併し、平成二〇年六月現在、九分団五八部団員一、〇二五人となっております。

私の消防団歴は、昭和四八年四月に消防団員を拝命したことから始まりました。

当時は林野火災が発生すると何日間もホースを延ばしてはまた移動し、心身ともに疲れ果てた状態で下山した記憶が鮮明に残っています。昨年五月に当市で発生した林野火災では、従来ながらの海戦術は行ったものの広範囲に及んだため火勢は衰えず、消防防災航空隊の出動を要請し、兵庫県はもちろんのこと、大阪市・京都市消防局、鳥取県、香川県の防災ヘリ、自衛隊のヘリの応援出動を得てようやく鎮火に至ったものです。消防戦術の革新、進歩を感じずに

はいられませんでした。各種災害の多様化した現在、地域住民が寄せる消防団への期待は以前にも増しており、時代の要求にあった消防団組織の改革が必要であると痛感しております。

消防の使命は「地域住民の生命、身体及び財産を守ること」であり、その使命を全うするため、日頃、団員には応急手当の習得を呼び掛け、その結果、これまで多くの団員が普通救命講習を受講し、心肺蘇生法を体得しています。消防が装備する機械器具の進歩は目を見張るものがあります。しかし、私はそれを操る団員の「心意気」がもっとも大切で、人材育成が地域防災のもっとも重要かつ必要要素であると考え、その人材育成に全力を注ぎたいと考えています。

消防団今昔

50

「日々研鑽」

南あわじ市消防団長

川本 啓二



南あわじ市は淡路島の南部に位置し、島内の約四〇%の面積二二九平方キロメートルの地域で人口約五五、〇〇〇人を有し中央部には三原川を中心に開けた島内随一の肥沃な三原平野を形づくり、その農業生産は野菜を中心とした三毛作体系で農漁業を中心とした全国に誇れる産業を創出し、以前は「花とミル

クとオレンジの島」でのキャッチフレーズを掲げていました。平成十七年一月に旧緑町・西淡町・三原町・南淡町の四町が合併し、南あわじ市消防団が結成され、団長以下四方面隊・五九分団で組織され、団員二、一九〇名で約一八、〇〇〇世帯の管轄区域を受け持っています。また、機動力としてポンプ車二五台・小型ポンプ積載車四八台で日夜、市民が安心・安全に暮らせるよう地域に密着した信頼される消防団組織として日々研鑽しています。

消防団として災害から市民の生命・身体・財産を守ることは当然のことであり、市民一人ひとりの意識改革にて防災力を高め、自主防災組織との連携のもとに、災害に備えた仕組みづく

りを幅広く展開しています。未曾有の被害をもたらした阪神・淡路大震災から十三年を迎え、また本年五月に発生した中国・四川省の大震災での被害状況等痛ましいものがあります。私たちの生活区域においても近い将来発生が想定される東南海・南海地震などの大規模地震対策についても、広域消防本部と一体化して地震防災対策を強力に推し進めてまいります。

消防団組織を取り巻く環境激変の中、職任分離の進展、少子高齢化等による社会環境の変化とともに、団員確保も年々厳しくなっており、市民一人ひとりの模範となる率先行動と規律ある団活動のもと「郷土愛護の精神」で、団員一丸となって今後とも精励の所存であります。

地区通信

「献血ボランティアと普通救命講習」

高砂市消防団

高砂市消防団は団長以下六七五名の団員が一致団結し、地域と密着した地域防災の担い手として幅広く活動しております。

その中で四月二〇日午前九時から午後三時まで、高砂市消防本部消防救助訓練場において、消防団員と団員の家族八二名が、献血ボランティアに参加しました。

消防団員の献血ボランティアは、平成十七年四月に、前年の新潟県中越地震や相次ぐ台風による自然災害などで、輸血用血液が全国的に在庫不足を受け、県姫路赤十字血液センターから消防団に献血の依頼があり、献血ボランティアに協力したのが始まりです。

以後、協力者を募り毎年集団献血を行い、今年で四年目を迎えて延べ三〇四名が献血ボランティアに参加しました。また、今回

から団員だけでなく、団員の家族にも呼びかけを行い献血に参加しました。

県赤十字血液センターの評によると、ショッピングセンター等で献血を実施しても、一日二〇人ぐらしか献血者がいないとのことで、大変喜んでいただきました。

「輸血用血液の在庫が不足する中、消防・災害活動以外でも社会に役立つ活動を、また、献血ボランティアを通して市民に喜んでもらえれば」ということで献血に参加しています。

さらに、消防団の年間行事の一環として、五月十八日高砂市消防本部会議室において、団員を対象にした普通救命講習が実施され、三一名が受講して、修了証が手渡されました。



団員及び家族の採血



普通救命講習

われら若手消防団員

10

「消防団に入団して」

赤穂市消防団

酒井 順平



私が消防団に入団するきっかけは、管轄地域の分団長が父であり、週末になると新しい入団者の勧誘に出かける父のことばでした。「人にお願いをして入団してもらおうには、先に筋を通さないとあ。順平、入団頼むわ」と言われたことが正直なところでした。

イレンが鳴ると一目散にハッピー姿で家を飛び出した父、朝になり目が覚めても父が帰っていないことも度々。「入団を頼む」のことは最初は迷いましたが、父の熱意が私へのパトントッチと受け止め入団を決定しました。入団後の秋、台風による集中豪雨災害に父とともに出動し、降り続く豪雨と河川水位の急激な上昇で防波堤と雨水排水溝から逆流した出水を目の当りにした際、消防団活動の必要性と重要性を身に染みて感じさせられました。休むことなく土のうを作る者、出来上がった土のうを手際よく家屋の玄関先に積み上げていく者。訓練では積み土のうも体験しましたが、暴風と豪雨の中での作業に一瞬身震いしながら、父と先輩団員の頼もし

い姿を今でも覚えています。「地域は自分たちで守る」とよく言われますが、いざ災害が発生した時、地域で頼られる消防団でありつづけるためにも、日頃から災害に備える消防団活動を身に付けなければなりません。父は二年前に消防団を退任しましたが、今では訓練、災害に出動するときは「気を付けろ」と後押ししてくれます。父の期待に添えるよう、地域の防人を目指し防災活動に励みます。



# 北から南から

## 「行ってみたい・住んでみたい・住み続けたいまち・芦屋」

### 芦屋市支部

芦屋市は大阪と神戸の中間に位置し、北に目を向けると緑豊かな六甲の山々が連なり、一方南には大小さまざまな船が行き交う穏やかな大阪湾を臨む全国唯一の「国際文化住宅都市」として発展してきました。

はるか昔から穏やかな気候に恵まれ、また交通の要所でもあったこの土地は、阿保親王や在原業平ゆかりの地として「万葉集」や「伊勢物語」をはじめ古典文学にもたびたび取りあげられるなど、歌の名所としても広く知られた地でした。また、大正以降に関西の事業家が豪邸を多く建設したこともあり、阪神間の

高級住宅地として知られていま

芦屋市の市街地を見下ろす鷹尾山の西側の溪谷には、高さ十メートルほどの「高座の滝」があります。ここは、もともと修験者が滝に打たれて修行する場所でしたが、今では二軒の茶屋などもあり、秋になると紅葉の名所として大勢のハイカーがここに訪れます。

高座の滝からさらに六甲山の奥に進んで行くと、白い岩肌が露出している芦屋ロックガーデンに出ます。風化した屋根根と花崗岩の岩壁が広がり、ロッククライミングの練習場として全国



ヨットハーバーと潮芦屋地区

的にも有名な場所です。さらに、北へ行くと風吹岩があり、ここから眼下に広がる大阪湾を一望できます。

芦屋川は六甲山を源にする芦屋市を縦断する川で、北は桜並木、南は松並木が連なります。芦屋川河口付近には松林の美しい芦屋公園があり、公園内には源頼政が退治した妖怪が流れ着いたという伝説が残る「ぬえ塚」記念碑が建てられています。

芦屋川河畔は約二五〇本の桜並木が続く芦屋の桜の名所として知られており、桜の見頃をむかえる四月上旬頃には多くの花見客が訪れます。

芦屋市の最南端に位置する「潮芦屋」は、六甲山を源流とする芦屋川の河口につくられた面積約一二五、六haの人工島で甲子園球場の約三二倍という広大な敷地に、かつて「白砂青松」とうたわれた芦屋浜の景観が再現され、芦屋市総合公園や潮芦屋ビーチへの散策などが楽しめる。海の景観を生かした係留施設付住宅の分譲も行われています。

夏の七月には夏祭りとして「潮芦屋」は、六甲山を源流とする芦屋川の河口につくられた面積約一二五、六haの人工島で甲子園球場の約三二倍という広大な敷地に、かつて「白砂青松」とうたわれた芦屋浜の景観が再現され、芦屋市総合公園や潮芦屋ビーチへの散策などが楽しめる。海の景観を生かした係留施設付住宅の分譲も行われています。



芦屋川の桜並木



夜空を飾る芦屋サマーカーニバル花火大会

### 「優しく和を尊ぶ団長」

神戸市須磨消防団  
高木 優和 団長



神戸市では平成七年の阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて、平成十六年九月に新時代の消防団検討委員会を立ち上げ、そこで二年半の年月をかけて消防団のさまざまな活性化案が議論されました。それを受けて須磨消防団でも活性化事業として、当時の黒江団長を筆頭

に女性消防団員の採用、SSC A P (須磨消防団防災リーダー)の結成、分団の管轄区域の見直し等に取組んできました。

そして、黒江前団長勇退のあと平成二〇年四月より高木団長が第十代須磨消防団長に就任なさいました。高木団長は見た目では身長一七八cmと大柄な体格ですが、名前のとおり優しく和を尊ぶという方でいつも笑顔が絶えません。また、SSC A P 結成の折(当時副団長)には中

心的な立場で結成に尽力なされるなど、リーダーシップにおいて

は誰にも勝るとも劣りません。

そして、何よりも自慢したいのは事務処理の正確さ。これも消防団員の中では右に出る者はいません。このように高木団長

### わがまちの団長さん

⑮

### 「団のまとまりを最重視」

神戸市兵庫消防団  
伊庭 勝一 団長



団業務に励んでいます。団長は昭和三八年に入団され、平成四年に分団長、平成八年に副団長、そして今年平成二〇年四月に団長に就任されました。就任早々、定員変更に伴う団員の再配置や消防団業務の見直しなど、消防団の再構築中期計画策定に精力的に取り組んでおられます。

団長は建築金物全般を中心とする各種金物製作会社を経営されており、特にステンレス加工においては地域トップの技術と品質とサービスを提供し続けておられます。その会社経営の経験を生かされて、消防団運営に

つづ最後には決断され、兵庫消防団としての「まとまり」を最も大事に考えておられます。

また団長は、神戸ウエストライオンズクラブにも長年にわた

り所属されており、一昨年には会長としてクラブの運営にも携

わっておられました。そして家庭では、お孫さんに囲まれ、ご家族に優しく接しておられる良きお父さん、良きお爺さんです。

神戸市のほぼ中央に位置する兵庫区は神戸市発祥の地であり、多くの歴史と伝統を有するまちです。奈良時代に大輪田泊(お

おわたのとまり、後の兵庫港)が築かれ、今日の神戸港発展の基礎となりました。現在、面積約十五平方キロメートル、人口約一八、〇〇〇人となっています。

兵庫消防団は伊庭団長以下一七〇名の団員がおり、安全・安心なまちの実現を目指して消防



地 区 通 信

「平成二〇年度 豊岡市日高消防団消防初出式」

豊岡市日高消防団

「気をつけろー!」

長岡団長の号令を合図に、整列した団員が一斉に姿勢をとる。咲き始めたソメイヨシノがハラハラと舞う、うららかな朝に、豊岡市日高消防団の新年度のスタートが切られました。

日高消防団では、毎年四月の第一日曜日に初出式を開催しています。団員にとっても忙しい時期ではありますが、待機団員を除き、全団員が揃う数少ない機会であり、新年度のスタートを切る一大行事として定着しています。最近では出初式と呼ばれることも多いのですが、我が団では町火消しの伝統を引き継ぎ、今でも初出式と呼称しています。



開式前



分列行進



一斉放水

今年四月六日に開催しました。豊岡市役所日高総合支所前駐車場を会場として、団員約五〇〇名、車輛二〇台が参集し、式典、分列行進、そして一斉放水を行いました。

最後は初出式の華、一斉放水です。分列行進を終えた分団から順次、隣接する中川用水路前に部

署し、市道を挟んで会場内までホース延長を行い放水準備にかかります。豊岡市消防本部から応援出動いただいたはしご車を中央に配して、指揮車のサイレンを合図に二〇本の筒先から空に向けて吹き上がる水のカーテンができる、会場内には大きな歓声が上がります。

式典では、四月一日から新しく団長に就任された長岡団長から、「消防力は人材力と思いません。日頃の健康に留意し、心身ともに鍛え、『我々の住むまちは、我々が守る』という気概と信念を持って団活動に取り組んでください。」との訓示がありました。

「カラー放水始め」の無線指示により、ポンプ車八台はカラー放水に切り替えて四色の水柱を放ち、初出式のフィナーレを飾りました。実は、この初出式当日、未明に民家を全焼する火災が発生しました。消防署・消防団などの懸命の消火作業により、幸いにも負傷者はなく類焼も最小限に食い止める事ができました。地元分団にあつては、消火作業だけでなく、明け方近くまでの警戒に引き続いての初出式となり、体力的にも大変厳しいものがあつたと思えますが、好天にも恵まれました。この初出式により、団員一同、地域の安心・安全を守るため精励することを誓い、消防団活動への気持ちを新たにしました。

分列行進では副団長が団旗を従えて先導し、全十八分団の団員並びに消防車輛が整然と行進しました。式典の終盤から増えた親子連れの見学者は、行進の開始前には観覧台付近に場所を移して、行進する団員(父親?)らに声援を送り、緊張感が漂う中にも和やかな雰囲気が進みました。

また、消防団今昔には西脇市消防団長遠藤明さん、南あわじ市消防団長川本啓二さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

ご存じのとおり、兵庫県消防操法大会の開催まであとわずかとなりました。今年はどういう大会になるのか今から楽しみです。

度団長名簿、第十四回全国女性消防団員活性化北海道大会について掲載しております。

暑い暑い暑さが続いており、皆様がいかがお過ごしでしょうか。さて、今月号では平成二〇年度団長名簿、第十四回全国女性消防団員活性化北海道大会について掲載しております。

また、消防団今昔には西脇市消防団長遠藤明さん、南あわじ市消防団長川本啓二さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

編集後記

暑い暑い暑さが続いており、皆様がいかがお過ごしでしょうか。さて、今月号では平成二〇年度団長名簿、第十四回全国女性消防団員活性化北海道大会について掲載しております。

「こんにちは!兵庫の消防団です」



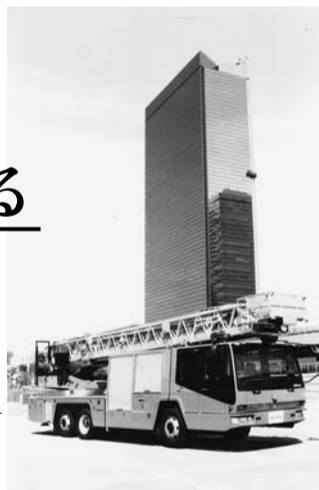
http://www.hyogoshoubou.jp/

美と力を備えた新しいテクノロジーが社会と暮らしを守り続けます。

安心を科学するモリタです。

株式会社モリタ

本社 〒544-0003大阪市生野区小路東5丁目5番20号 TEL06(6756)0119 FAX06(6754)3473 東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山



吉谷式消防ポンプ自動車

営業品目

- 屈折梯子付消防ポンプ自動車 消防救助工作車
化学消防ポンプ自動車 小型ポンプ積載車
水槽付消防ポンプ自動車 シバウラ小型動力消防ポンプ
普通型消防ポンプ自動車 各種消防用品
高発泡機付消防自動車 消防用ホース



株式会社 吉谷機械製作所

本社・工場 鳥取市古海356の1 TEL(0857)23-2211(代) FAX(0857)27-1766

世界へ羽ばたく! GMの消防自動車



大槻ポンプ工業株式会社

●本社・営業本部 〒623-0021 京都府綾部市本町7丁目67-2 TEL(0773)42-0681(代) FAX(0773)42-9229

消防団服

- 甲種 日毛・帝人・東レ団服・作業服・制帽
乙種 刺子・木綿
ハッピー・ズボン・腹掛・革バンド

附属品一式

キンパイホース 兵庫県特約店

株式会社 三浦消防

姫路市竜野町1丁目1番地 電話(姫路)92-0447 (0792)98-8663